

日本大学

生産工学部土木工学科

教授 工藤 勝輝

日本大学は、1889年（明治22年）に創立された日本法律学校を前身とし、創立以来、教育・研究活動を始め、医療、生涯学習等、社会の発展に貢献すべく様々な活動を展開しており、現在は14学部84学科、大学院22研究科などを擁する世界有数規模の総合大学です。また、日本大学のキャッチフレーズ「あなたとともに100万人の仲間とともに」にも表されているように、国内で最多となる1,061,796人の卒業者（平成24年3月現在）を輩出しています。

日本大学生産工学部土木工学科は、工学部（現日本大学理工学部）工業経営学科が大久保校舎（現日本大学生産工学部津田沼校舎）に移転した昭和32年度の入学生を、2年次より6コースの専攻（工経・土木・建築・機械・電気・工化）に組み分けたことに始まります。昭和37年3月に日本大学工学部工業経営学科第2コース（土木）を専攻した44名が第1回卒業生となって以降、51年間目となる平成

24年3月に168名が卒業し、計11,319名が日本大学生産工学部土木工学科の卒業生として社会で活躍しています。平成17年度には、土木工学科マネジメントコースを対象とした日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education）の新規審査を受審し、平成19年度の間審査、平成22年度の認定継続審査を経て、現時点では平成16年度から平成26年度までのマネジメントコース卒業生が、JABEEによる認定を受けています。よって、JABEE認定期間中のマネジメントコース卒業生は、技術士補（建設部門）の登録が可能になります。

土木工学科では、現在、環境プランニングコース、都市コース、ならびにマネジメントコースの教育目標に即したカリキュラムが展開されており、測量系の科目としては、2年次から3年次にかけて測量学I・同I（S）、測量実習I・同I（S）、測量学II、測量実習II、応



図1 セオドライトによる測角



図2 TSによる基本型クロソイドの打設

用測量学、応用測量実習を設置しています（（S）科目はマネジメントコースのみの科目）。なお、測量系の科目は、測量士補試験の試験科目（測量に関する法規、多角測量、汎地球測位システム測量、水準測量、地形測量、写真測量、地図編集、応用測量）を網羅するようにシラバスが設計されています。図1は「測量実習I」で実習するセオドライトによる測角、図2は「応用測量実習」で実習するトータルステーション（TS）による基本型クロソイドの打設の様子です。土木工学科では、12台のTSを保有しており、多くの学生が実社会で利用されている器材を使用できる環境が整っています。

また、日本大学生産工学部の特色ある教育のひとつに、「生産実習」があります。生産実習は、産学連携による人材育成の一形態であるインターンシップ制度の先駆けとして、学部創設時からの長い歴史と経験で培われた実績を有しています。図3に示すとおり、この科目の目的は、「大学における学習と並行し、企業あるいは公的機関等において所定の期間の実習を体験することにより、専門的知識と実践技術との密接な関連を学び取り、豊かな独創性・実践力ある工学技術者等を育成すること」です。土木工学科では、3年次の必修科目として、毎年、官公庁、総合建設会社、建設コンサルタント会社、ならびに専門工事会社などの実践現場で、夏季休暇中の約1ヶ月にわたって、学生は個々に研修を受けています。さらに、学年全体では、建設現場を見学する現場研修旅行も毎年、実施しています。図4は栃木県日光市の湯西川ダムの建設現場、図5は開通前の東京ゲートブリッジを見学した際の一瞥です。

土木工学科の主な就職先は、官公庁や建設業ですが、平成19年度以降も98%以上の就職率を誇っています。この数字は、キャリア教育の実践、大学独自の就職支援体制もさることながら、OB・OGによるサポートが大きく



図3 「生産実習」の概念



図4 現場研修旅行（湯西川ダム）



図5 現場研修旅行（東京ゲートブリッジ）

寄与しています。今後も、日本大学生産工学部土木工学科は、日本大学のスケールメリットを大切にしつつ、国際水準の基礎知識・実務能力を身につけた技術者を育成します。